

株主の皆様へ

第75期 中間報告書

〈2022年1月1日～2022年6月30日〉



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。当社グループ第75期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申しあげます。

当第2四半期（2022年1月1日から2022年6月30日まで）におきましては、期初から新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置の影響がありましたが、3月下旬以降は行動制限が緩和され、個人消費も持ち直してまいりました。当業界におきましては、主原料の小麦粉をはじめとする原材料価格の高騰やエネルギーコスト上昇の影響もあり厳しい経営環境となりました。

当社グループは、社会の緊急事態の中にあって安定した製品の供給に当たるといふ、新しいヤマザキの精神に従い、科学的根拠に基づいた感染防止対策として、37.2℃以上の発熱や新型コロナウイルス独特の自覚症状がある者は自宅待機とし、自宅待機者数とPCR検査陽性者数を日々管理するとともに、マスクの着用や手指の消毒など日常の感染防止対策を徹底し、炭酸ガス濃度測定器によって、常時職場内の換気をしながら炭酸ガス濃度を700ppm以下に保つなど、職場の感染防止対策の徹底に取り組んでまいりました。

このような中で、当社グループは、新型コロナウイルス感染防止対策の上に行う業績向上対策として、「いのちの道」の教えに従う、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主原料の小麦粉価格の大幅な上昇に対しては、本年1月1日出荷分から食パン、菓子パンの価格改定を実施し、2極化・3極化戦略によって低価格帯製品や値頃感のある製品を強化するなど価格帯毎に隙のない製品対応を推進したことにより、売上は好調に推移しました。当第2四半期の業績につきましては、当社の好調な業績に加え一部の連結子会社の業績が改善したこともあり、増収増益となりました。

下半期につきましては、小麦粉価格の更なる上昇を受け、本年7月1日出荷分から、食パン、菓子パンの価格改定を実施するとともに、2極化・3極化戦略を徹底し価格帯毎に隙のない製品対応に取り組み、売上は順調に推移しております。

引き続き、「いのちの道」の教えに従う、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、お客様の求めに応じた新しい価値と新しい需要の創造に取り組み、業績向上をめざしてまいります。

さて、当社は、東京証券取引所のプライム市場への移行ならびにコーポレートガバナンス・コードの対応として、本年3月開催の第74回定時株主総会でご承認をいただき、監査等委員会設置会社に移行し、新しい経営体制となりました。これに伴い、独立社外取締役の数が取締役の3分の1となりましたので、業務執行の中心機関を取締役会から常務会に移し、常務会の下部機関として、コーポレートガバナンス（企業統治）小委員会、営業生産合同（現業）小委員会、関係会社小委員会を設置しました。各小委員会を随時開催して問題課題の協議検討を行い、会社としての意志・方向付けを明確にし、責任を持って常務会に提案しております。これらは有効に機能しており、業務執行の精度向上とスピードアップがはかられております。

今後につきましても、21世紀の新しいヤマザキの前進に向け全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげる次第でございます。

目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
製品情報	9
社会貢献への取組み	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況等	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

2022年8月

代表取締役社長 **飯島 延浩**

経営基本方針

綱領

- (1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、いのちの道の教えの言葉に従い、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって、神のみこころにかなう永続する事業の実現を期すこと。
- (2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

21世紀のヤマザキは、新しいヤマザキの精神と新しいヤマザキの使命に導かれて、いのちの道の教えの言葉に従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する「部門別製品施策・営業戦略」、「小委員会によるなぜなぜ改善」を行ない、次の六つの具体方針の実践、実行、実証に邁進する。

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストオリティ・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能の努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまできていること。

- ③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。
この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。
- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。
配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上に立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、生命の道の教えに従ったすべての仕事を種蒔きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需要

を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、生命の道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」という生命の道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

当第2四半期における連結業績の概況

売上高 **5,282億52百万円** (対前年同期比 107.1%)

営業利益 **143億81百万円** (対前年同期比 117.7%)

経常利益 **171億11百万円** (対前年同期比 124.4%)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **90億23百万円** (対前年同期比 124.7%)

(注) 当期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。なお、売上高の対前年同期比については、前年同期と同基準の収益認識会計基準適用前との比較で記載しております。

当第2四半期の事業の概況

当第2四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルスによる活動制限が緩和され、景気は持ち直しの動きが見られましたものの、原材料価格の上昇が続く中で、ウクライナ情勢の長期化や円安の影響もあり、先行き不透明感が強まりました。

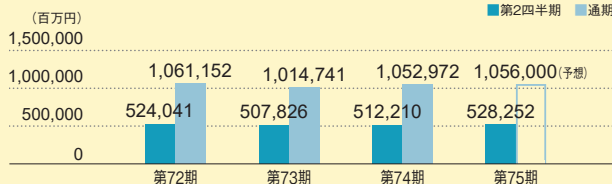
当業界におきましては、物価上昇によりお客様の節約志向が更に強まり消費が伸び悩む中で、主原料の小麦粉や油脂、包材などの原材料価格の高騰に加え、都市ガス、電気などのエネルギーコストの上昇もあり厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、3月下旬以降、まん延防止等重点措置の終了を受け、人流が回復傾向となりおにぎりやサンドイッチなどの需要も回

復してまいりました。

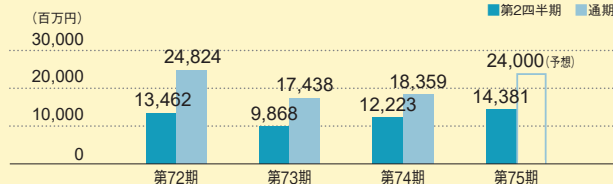
このような情勢下にありまして、当社グループは、緊急事態においてパン、和菓子、洋菓子類を緊急食糧として社会に提供するという新しいヤマザキの精神に従い、新型コロナウイルス感染拡大の中で製品の安定供給を確保するため、全従業員に対して検温を実施し、37.2℃以上の発熱がある者は自宅待機とし、また発熱がない場合でも新型コロナウイルス独特の自覚症状がある者も自宅待機とし、この自宅待機者数とPCR検査陽性者数を日々管理しました。また、マスクの着用や手指の消毒など日常の感染防止対策を徹底するとともに、5人以上の会食の原則禁止や感染の恐れの高い遊興施設の利用禁止など、公衆衛生上の遵守事項を徹底しました。さらに、工場・事業所内の感染防止対策として、炭酸ガス濃度測定器によって、常時職場内の換気をしながら炭酸ガス濃度を700ppm以下に保つとともに、従業員向けに新型コロナウイルスワクチンの職域接種を推進し、社会的使命の達成に全力を挙げて取り組んでまいりました。

このような状況の中で、当社グループは、新型コロナウイルス感染防止対策の上に行う業績向上対策として、「いのちの道」の教えに従う、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、ルヴァン種等を活用して品質の向上をはかるとともに、変化するお客様のニーズに対応した新製品開発に取り組むなど、各部門毎の業績向上をめざしました。

売上高



営業利益



主原料の小麦粉価格の上昇を受け、本年1月に食パン、菓子パンの価格改定を実施しましたが、2極化・3極化戦略によって低価格帯製品や価値感のある製品を強化するなど価格帯毎に隙のない製品対応を推進したことにより、業績は好調に推移しました。また、同様の戦略を和菓子、洋菓子にも展開し業績の回復をはかりました。

デイリーヤマザキやヴィ・ド・フランスなど小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにより日次管理・週次管理の経営手法を徹底し日々の仕事の精度向上につとめるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームによって、ヤマザキの技術を最大限活用した、競争力のある商品開発を推進するなど業績回復をめざしました。

当第2四半期の業績につきましては、山崎製パン単体の食パンや菓子パンが好調に推移したことに加え、一部の連結子会社の業績が改善したこともあり、増収増益となりました。

[セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。]

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、原材料価格の上昇や円安の影響が懸念される中で、新型コロナウイルスの感染者数が急拡大しており、景気の先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の節約志向が強まり消費が伸び悩む中で、主原料の小麦粉価格の大幅な上昇に

加え、油脂や包材など原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇が今後も見込まれており、厳しい経営環境になるものと思われます。

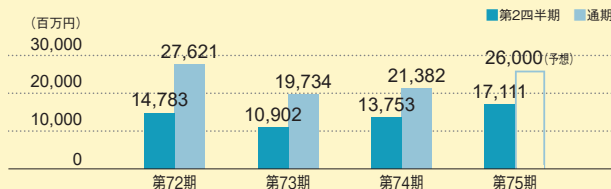
このような状況下にあります、当社は、小麦粉価格の大幅な値上げを受け、本年7月1日出荷分から、食パン、菓子パンの価格改定を実施しましたが、引き続き2極化・3極化戦略によって価格帯毎に隙のない製品対応に取り組み、売上は順調に推移しております。

当社グループは、新型コロナウイルス感染者数が急拡大する中で、改めて感染防止対策を徹底するとともに、「いのちの道」の教えに従った、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」によって、ヤマザキ独自の技術を活用した品質向上や新製品開発に取り組み、変化するお客様のニーズに対応した2極化・3極化戦略によって、新しい価値と新しい需要の創造に取り組んでまいります。

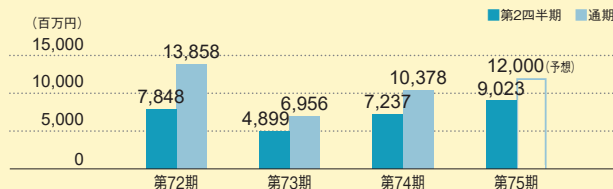
通期の連結業績見通し

売上高	1兆560億円 (対前期比103.8%)
営業利益	240億円 (対前期比130.7%)
経常利益	260億円 (対前期比121.6%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	120億円 (対前期比115.6%)

経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



セグメント別の状況

(注) 5頁から8頁の対前年同期比と前年同期との比較コメントは、前年同期と同基準の収益認識会計基準適用前との比較で記載しております。

食品事業

売上高 **4,919億53百万円** (対前年同期比 106.8%)

93.1%
売上高構成比

食パン部門

売上高 **516億92百万円** (対前年同期比 106.5%)

9.8%

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が伸長し、「モーニングスター」や「スイートブレッド」などルヴァン種を活用して品質を向上させた低価格帯食パンが大きく伸長するとともに、サンドイッチ用食パンの回復もあり、前年同期の売上を上回りました。



ロイヤルブレッド



超芳醇



ダブルソフト



ふんわり食パン



モーニングスター



スイートブレッド

菓子パン部門 売上高**1,870億83百万円** (対前年同期比 107.7%)

35.4%

菓子パンは、主力の高級シリーズや「ルヴァンバターロール」などの食卓ロールが好調に推移し、値頃感のあるヤマザキ菓子パンシリーズが伸長するとともに、主力の「ランチパック」や複数個入りの「ベイクワン」シリーズが堅調に推移しました。さらに、前第4四半期から海外子会社を新規連結したことによる売上寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。



高級つぶあん



2色パン
チョコ&クリーム
(ヤマザキ菓子パン)



ランチパック
たまご



ルヴァンバターロール



リンゴデニッシュ
(ベイクワン)

和菓子部門 売上高**341億38百万円** (対前年同期比 103.3%)

6.4%

和菓子は、主力の串団子やまんじゅうが堅調に推移し、複数個入りの大福や蒸しパンが好調に推移するとともに、「クリームたっぷり生どら焼」などチルド製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。



吹雪まんじゅう



串だんご



北海道チーズ蒸しケーキ



クリームたっぷり生どら焼



塩豆大福

セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高**717億51百万円** (対前年同期比 101.0%)

13.6%

洋菓子は、「大きなツインシュー」などシュークリームが好調に推移するとともに、(株)不二家の洋菓子事業が好調に推移したことに加え、前第4四半期から海外子会社を新規連結したことによる売上寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。



苺のショートケーキ



大きなツインシュー



イチゴスペシャル風生ケーキ



エッグタルト



5つに切ったロールケーキ

調理パン・米飯類部門 売上高**697億53百万円** (対前年同期比 106.2%)

13.2%

調理パン・米飯類は、(株)サンデリカにおいて、「フルーツサンド」など量販店向けチルド調理パンが伸長するとともに、主要販路であるコンビニエンスストアチェーンとの取引が回復したことに加え、大徳食品(株)において麺類の取引が拡大したこともあり、前年同期の売上を上回りました。



おかず
幕の内弁当



こだわりソースの焼きそばパン



シーチキン
マヨネーズ



大きなサンド
ミックス

4種の
フルーツサンド



濃厚な味わいの
ミートソースバゲティ

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 **775億33百万円** (対前年同期比 112.0%)

14.7%

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「カントリーマアム チョコまみれ」が伸長するとともに、(株)東ハトの「ポテコ」や「あみじゃが」が伸長するなど、前年同期の売上を上回りました。



エアリアル



ポテコ



あみじゃが



カントリーマアム
チョコまみれ

流通事業

売上高 **299億95百万円** (対前年同期比 113.1%)

5.7%
売上高構成比

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、「ランチパック 大盛り」シリーズなど当社グループ商品の充実と戦略商品の開発に取り組むとともに、値頃感のある製品の品揃え強化をはかりました。また、既存店舗の改装を行い、個店の強化を進めるとともに、松戸ドミナントプロジェクトを通じてデイリーホットの収益改善に取り組みました。チェーン全店売上高は前年同期を上回るとともに、営業総収入は直営店舗数の増加により増収となりました。なお、売上高には、前第4四半期から新規連結した(株)スーパーヤマザキの売上高が含まれております。



デイリーヤマザキ五井駅前店 (千葉県市原市)



ランチパック
ツナマヨネーズ 大盛り



味わいたまごサンド
贅沢海老かつサンド
(デイリーホット)

デイリーヤマザキ
当第2四半期末の店舗数

1,372店

(前年同期末差 32店減)

●デイリーヤマザキ

1,041店

(前年同期末差 10店減)

●ニューヤマザキデイリーストア

319店

(前年同期末差 21店減)

●ヤマザキデイリーストア

12店

(前年同期末差 1店減)

製品情報

当第2四半期の食パン部門は、主力ブランドとともに、お客様のニーズに対応した低価格帯食パンのラインアップを充実し、売上は好調に推移しました。その中から、特に売上が伸長した食パンをご紹介します。



『ロイヤルブレッド』

『ロイヤルブレッド』は、「品質とおいしさ」をテーマに、当社独自の技術と製法により、“小麦本来の味と香り”を活かして焼きあげた、バター風味とコクのあるしっとりとした食感が特長の食パンです。多くのお客様からご好評をいただき、本年度で発売10周年を迎えました。



『ふんわり食パン』

『ふんわり食パン』は、原料配合と焼成方法を工夫した当社独自の製法により、しっとり感とふんわりソフトな食感が特長の食パンです。

パン生地に乳酸菌を配合するとともに、発酵種ルヴァンを使用することで、しっとり感を高め口どけよく仕上げました。



『スイートブレッド』

『スイートブレッド』は、バター風味のあるしっとりソフトな食感が特長の山型食パンです。トーストするとサクッと軽い口当たりをお楽しみいただけます。

本年1月より発酵種ルヴァンを使用することで、しっとり感が向上するとともに、甘みとコクのある味わいになりました。



ほんのり甘くて、もちりおいしい『超芳醇』シリーズ

本年7月より『超芳醇』と『超芳醇ゴールド』をリニューアル発売いたしました。

『超芳醇』は、当社独自の湯捏製法により、ほんのりとした甘みともっちりとした食感が特長の食パンです。今回のリニューアルでは、新規の発酵種ルヴァンを使用することで、小麦本来の風味や旨味を引き出すとともに、湯捏生地を増やして、小麦本来の甘みをアップさせました。

『超芳醇ゴールド』は、当社最上級小麦粉を使用するとともに、バター、生クリームを配合することでコクのある濃厚な味わいに仕上げました。今回のリニューアルでは、新規の発酵種ルヴァンを使用することで、『超芳醇ゴールド』の特長であるコクのある濃厚な味わいがさらに引き立ちました。



塩分が気になる方へ

『超芳醇 塩分50%カット』

『超芳醇』シリーズのひとつとして、『超芳醇 塩分50%カット』を昨年4月より発売しております。既存の『超芳醇』に比べ、塩分を約50%カットし、6枚切1枚あたりで約0.45gの減塩を実現しました。

湯捏製法によるほんのりとした甘みともっちりとした食感に加え、新規の発酵種ルヴァンを使用することで、塩分をおさえてもコクのある味わいに仕上げております。

発売1周年を迎えた本年4月には、湯捏生地を増やして、さらに小麦本来の甘みをアップさせました。

公益財団法人 ^{ファイダー} 国際開発救援財団(FIDR)

国際協力援助活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団 ^{ファイダー} (FIDR) への支援を通じ、国際協力援助活動と緊急援助活動を推進しております。

FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐し特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) を支援する目的で設立された民間の援助団体です。

子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本人と日本企業による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と発展を目的とした国際協力援助活動と、国内外の自然災害に対する緊急援助活動を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、栄養、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っています。また、東日本大震災や熊本地震、平成30年7月豪雨災害、令和元年東日本台風による水害等、自然災害への緊急援助活動にも積極的に取り組んでいます。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

地方における子どもの医療支援

近年、堅調な経済成長が続くカンボジアですが、医療水準は依然としてアジア地域の平均から大きく遅れています。特に都市部と地方の医療格差は、重要な課題であり、北東部のクラチェ州では、基幹病院である州病院でさえ施設や適切な外科診療ができる人材が不足しています。

FIDRは、クラチェ州病院において、2017年より外科器材の配備を進め、2020年から2021年にかけて外科・産科病棟を建設し、機能的で衛生的な環境を整えました。また、医療従事者の技術指導を進めております。日本人の小児外科医も派遣する一方で、1996年から20年間にわたりFIDRが支援した首都プノンペンにある国立小児病院の外科医師・看護師が指導の中心を担っており、小児外科診療能力の向上に取り組んでいます。



クラチェ州病院で治療を受けた子ども（カンボジア）

● 子どもの栄養改善に向けた活動

経済発展が進むベトナムにおいて、最も発展が遅れているとされる中部山岳地域のコントゥム省では、子どもの栄養不良が深刻です。栄養不良という課題には、さまざまな要因が絡み合っており、栄養に特化した活動だけでは栄養不良を改善することは困難です。

FIDRは、食生活という日常の営みを改めるためには、日々の生活習慣を改善していくアプローチが有効であると考え、栄養教育、衛生改善、農業生産向上に取り組むとともに、住民ネットワークや行政による協力体制の構築を進めております。その活動のひとつとして、トイレ、水浴び、洗濯スペースが一体となった「マザーズ・スペース」の設置を推進しており、家庭の衛生環境の向上に効果をあげております。



「マザーズ・スペース」で洗濯をする女性（ベトナム）

FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.fidr.or.jp/>

● 新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急支援

ネパールでは、2021年4月から新型コロナウイルスの感染が拡大し、危機的な状況となりました。首都カトマンズではロックダウンが敷かれ、生計を立てられなくなった多くの人が農村部へ移動したことから、農村部においても感染が拡大しました。医療施設の整っていない農村部では、陽性患者の多くは自宅療養となり、保健スタッフが集落を巡回して容態を確認するにも医療資器材が不足していました。

FIDRは、ネパールの行政からの要請を受け、ソルクンプ郡とオカルドゥンガ郡において、重症化した患者を受け入れる隔離センターや集落巡回で使用する酸素濃縮器、個人用防護具（PPE）、抗原検査キット、パルスオキシメーターなどを支援しました。



不足している医療資器材を支援（ネパール）

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約3,500の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。



貸借対照表のポイント

流動資産

受取手形及び売掛金が236億76百万円減少したこと等により、流動資産合計で148億71百万円減少し、2,751億13百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、生産能力の増強や品質向上のための生産設備の更新等を実施しましたが、償却が進んだこともあり14億7百万円減少、また無形固定資産は、のれんの償却などにより4百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,493億74百万円となりました。当第2四半期の設備投資額は、150億74百万円、減価償却実施額は189億19百万円であります。

投資その他の資産

連結範囲の変更に伴い投資有価証券が減少したこと等により27億56百万円減少し、1,138億24百万円となりました。

負債合計

借入金の約定返済や支払債務の減少等により、負債合計は210億9百万円減少し、3,541億25百万円となりました。

純資産合計

自己株式の取得による減少はありましたが、利益剰余金の増加等により、純資産合計は19億69百万円増加し、3,841億86百万円となりました。

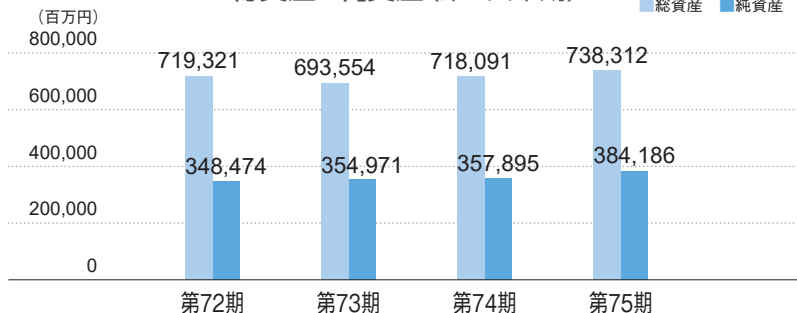
四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

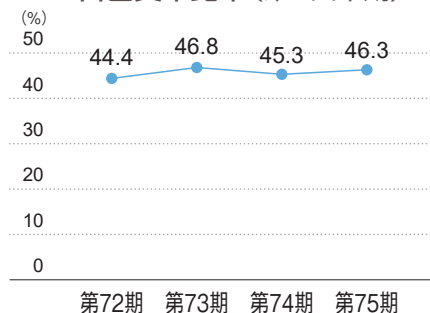
科目	当第2四半期末 2022年6月30日現在	前期末 2021年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	275,113	289,984	△14,871
固定資産	463,199	467,367	△4,168
有形固定資産	327,119	328,527	△1,407
無形固定資産	22,254	22,258	△4
投資その他の資産	113,824	116,581	△2,756
資産合計	738,312	757,352	△19,040
負債の部			
流動負債	219,986	235,286	△15,300
固定負債	134,139	139,848	△5,709
負債合計	354,125	375,135	△21,009
純資産の部			
株主資本	313,227	315,910	△2,683
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,632	9,633	△0
利益剰余金	314,471	310,080	4,390
自己株式	△21,890	△14,817	△7,073
その他の包括利益累計額	28,330	26,663	1,667
非支配株主持分	42,628	39,643	2,985
純資産合計	384,186	382,217	1,969
負債純資産合計	738,312	757,352	△19,040

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

総資産・純資産(第2四半期)



自己資本比率(第2四半期)



損益計算書のポイント

売上高

単体の食パン、菓子パンが好調に推移するとともに、新規連結子会社の寄与もあり、前年同期に比べ160億41百万円の増収となりました。なお、当期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、収益認識会計基準適用前の前年同期と同基準で算出した場合は、361億91百万円の増収になります。

営業利益

エネルギーコスト等の増加はありましたが、増収等により、前年同期に比べ21億57百万円の増益となりました。

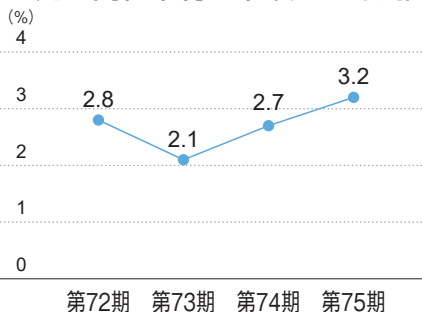
経常利益

外貨建貸付金に係る為替差益の計上もあり、前年同期に比べ33億58百万円の増益で、売上高経常利益率は3.2%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

税負担の減少もあり、前年同期に比べ17億86百万円の増益となりました。

売上高経常利益率（第2四半期）



四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	前第2四半期 2021年1月1日から 2021年6月30日まで	増減
売上高	528,252	512,210	16,041
売上原価	354,416	331,078	23,337
売上総利益	173,835	181,131	△7,296
販売費及び一般管理費	159,454	168,907	△9,453
営業利益	14,381	12,223	2,157
営業外収益	3,438	2,324	1,113
営業外費用	708	795	△86
経常利益	17,111	13,753	3,358
特別利益	441	972	△531
特別損失	1,756	1,222	534
税金等調整前四半期純利益	15,796	13,503	2,292
法人税等合計	5,673	5,554	119
四半期純利益	10,122	7,949	2,173
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,099	712	387
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,023	7,237	1,786

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	前第2四半期 2021年1月1日から 2021年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	48,619	48,486	132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21,306	△18,549	△2,757
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,780	5,975	△27,756
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,083	225	858
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,616	36,138	△29,522
現金及び現金同等物の期首残高	133,495	102,842	30,652
現金及び現金同等物の四半期末残高	140,111	138,981	1,130

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（単体）

四半期貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2022年6月30日現在	前期末 2021年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	153,222	165,847	△12,624
固定資産	386,331	390,626	△4,295
有形固定資産	204,142	209,067	△4,925
無形固定資産	6,817	6,209	607
投資その他の資産	175,371	175,349	22
資産合計	539,554	556,474	△16,919
負債の部			
流動負債	139,529	150,600	△11,070
固定負債	102,443	105,062	△2,619
負債合計	241,973	255,663	△13,689
純資産の部			
株主資本	271,994	274,491	△2,496
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	273,194	268,618	4,576
自己株式	△21,890	△14,817	△7,073
評価・換算差額等	25,586	26,320	△733
純資産合計	297,581	300,811	△3,229
負債純資産合計	539,554	556,474	△16,919

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	前第2四半期 2021年1月1日から 2021年6月30日まで	増減
売上高	382,194	372,531	9,662
売上原価	257,837	249,838	7,999
売上総利益	124,356	122,693	1,662
販売費及び一般管理費	113,577	112,180	1,396
営業利益	10,779	10,513	265
営業外収益	4,073	2,721	1,352
営業外費用	523	651	△127
経常利益	14,329	12,582	1,746
特別利益	43	105	△62
特別損失	1,125	664	460
税引前四半期純利益	13,247	12,024	1,223
法人税等合計	3,988	3,745	243
四半期純利益	9,259	8,278	980

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 当期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、収益認識会計基準適用前の前年同期と同基準で算出した場合の売上高は、114億12百万円の増収になります。

YAMAZAKI インフォメーション

ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2022年9月1日（木）から11月15日（火）までの期間中、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施いたします。

対象製品についている点数券を集めてご応募いただくと、毎週抽選で総計40,000名様に素敵な賞品をプレゼントいたします。

詳しくは対象製品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

Aコース ヤマザキグループのお菓子のびっくり箱

Bコース BRUNO コンパクトホットプレート

秋のわくわくプレゼント 2022

ヤマザキ

毎週抽選で 総計 **40,000** 名様に

キャンペーン期間 **当たる!**
9/1^①～11/15^② 応募期限:11月20日(日) 当日消印有効

Aコース 4点応募
ヤマザキグループのお菓子のびっくり箱 合計 **35,000** 名様

Bコース 6点応募
選べる!BRUNO コンパクトホットプレート 合計 **5,000** 名様

※写真はイメージです(カゴはプレゼントに含まれません)。
※抽選内容は変更になる場合があります。

※写真はイメージです。
※賞品はコンパクトホットプレート(本体・プレート2種類)のみとなります。

株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様（ご所有株式数1,000株以上）に対し、3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象といたします。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報やおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<https://www.yamazakipan.co.jp/>

株式の状況 (2022年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	22,250名 (前期末比1,871名減)

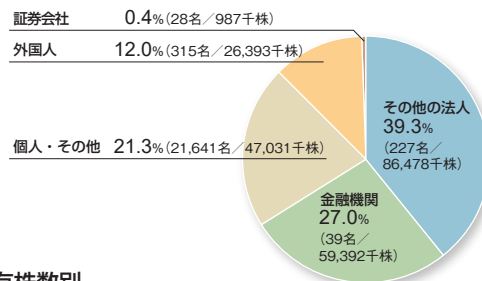
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	18,777,895	9.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,402,900	8.8
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	5.9
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.3
三菱商事株式会社	9,849,655	4.7
丸紅株式会社	8,165,880	3.9
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,780,900	3.7
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	3.1
住友商事株式会社	5,430,900	2.6
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.8

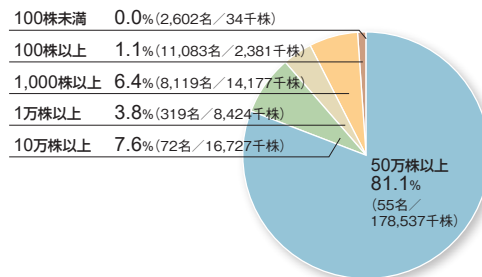
(注) 1. 当社は、自己株式を11,647,690株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出してあります。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (2022年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	常務取締役	園田 誠
取締役副社長	飯島佐知彦	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	横濱 通雄	取締役	佐藤 健司
専務取締役	会田 正久	常勤監査等委員	松田 道弘 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	常勤監査等委員	齋藤 昌男 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	取締役	馬場久萬男 (社外取締役)
専務取締役	深澤 忠史	監査等委員	

従業員

連結	33,091名 (男性23,897名、女性9,194名)
当社	20,422名 (男性15,995名、女性4,427名)

重要な子会社

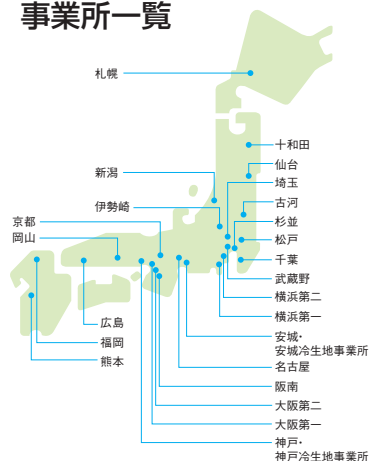
会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.4	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造および販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造および販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	100	100.0	ベーカリーカフェの経営
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造および販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造および販売
株式会社イケダパン	100	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc.(米国)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造および販売ならびにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造および販売ならびにインスタベーカリーの経営
フォーリーブズ PTE.Ltd.(シンガポール)	1,250千S\$	60.0	ベーカリーの経営
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造および販売
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
株式会社末広製菓	100	100.0	米菓、調理パン、米飯類等の製造および販売
PT.ヤマザキ インドネシア(インドネシア)	8,830億Rp	51.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティクス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理および工事の請負

(注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。

2. (株)サンロジスティクスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。

3. 連結子会社は、上記重要な子会社18社を含む35社であります。

事業所一覧



本社 東京都千代田区岩本町3-10-1
 本 松 戸 工 場 千葉県松戸市南花島向町319
 千 葉 工 場 千葉県千葉市美浜区新港22
 武蔵野工場 東京都東久留米市柳窪2-5-14
 埼 玉 工 場 埼玉県所沢市坂之下85
 杉 並 工 場 東京都杉並区高井戸西3-2-30
 横 浜 第 一 工 場 神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15
 横 浜 第 二 工 場 神奈川県横浜市都筑区東方町188
 古 河 工 場 茨城県古河市丘里7
 伊 勢 崎 工 場 群馬県伊勢崎市粕川町1801
 仙 台 工 場 宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1
 新 潟 工 場 新潟県新潟市江南区二本木4-12-8
 十 和 田 工 場 青森県十和田市稲生町1-13
 札 幌 工 場 北海道恵庭市恵南10-1

大 阪 第 一 工 場 大阪府吹田市幸町29-1
 神 戸 工 場 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
 大 阪 第 二 工 場 大阪府松原市三宅東2-1835-5
 阪 南 工 場 大阪府羽曳野市広瀬161
 京 都 工 場 京都府宇治市横島町目川100
 名 古 屋 工 場 愛知県名古屋市中区玉池町36
 安 城 工 場 愛知県安城市二本木新町2-1-3
 岡 山 工 場 岡山県総社市井尻野800
 広 島 工 場 広島県広島市安佐北区大林2-3-1
 福 岡 工 場 福岡県古賀市古賀69
 熊 本 工 場 熊本県宇城市松橋町浦川内2388
 安城冷地事業所 愛知県安城市二本木新町2-1-3
 神戸冷地事業所 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
 海外駐在員事務所 米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告によるものとし、当社のホームページ (https://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株式の上場	東京証券取引所プライム市場

株式に関する手続き

- 株式に関する各種手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種お手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。